

異常なる夏

池田桂一

三月二十五日

北帰行は明日かも知れぬ白鳥ら裏沼にさわぐ夜中の声は
上り坂たどりて丁字路左折してあだたら高原美術館に着く
黄揚羽は飛び移りゆくその先に野あざみの花一つをえらび
赤松の木蔭をえらび給水の二度目の休憩安達太良山行

蟬のこえいまだ声なく七月の半ばを過ぎて異常なる夏

松蟬のこえ時折に聞こえて木蔭に休む聞き耳立てて

学校の下校のチャイムと競い鳴きカッコウの声の高なり続く

カッコウのこだまは次第に遠くなり二十七度をテレビは告げる

屋根を打つ強き雨音に席を立つテレビ予報の雷雨の時刻

安倍総理汚点が付けば安倍草履投稿川柳佳作入選